

# ハンドボール



(財) 日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. 85

No. (16名用)

スローオフチーム

A	香川県	三重県	B
---	-----	-----	---

26 14-8 23  
 種別サイン 種別サイン

A 高千穂 7m TC 新大瀬雄 B

大会名	第67回国民体育大会 北九州大会		
開催日	平成24年10月6日	場所	下呂交流会館
種別	成年	男・女	第2回戦 準決 決 リーグ

A 香川県	警告	退場	失・追	チームタイムアウト		
				前半	後半	合計
役員A 島井好弘				25	51	22
役員B 大西勝巳						
役員C 藤本省三				得点		
役員D 小林真				前半	後半	合計
1 藤山美沙						
2 岡田好美				-	T	3
3 塩田河代				T	-	4
4 沢井理絵				正	T	8
5 坂部悠希						
6 中久保裕美						1
7 新後希希					正	5
8 鶴海未希						1
9 藤井優				T	T	4
10 土井菜那						
11 太田光咲						
12 石淵友紀						
合計	2	2	0	14	12	26

B 三重県	警告	退場	失・追	チームタイムアウト		
				前半	後半	合計
役員A 橋本嗣雄				4	10	20
役員B 平松茂雄						
役員C 細野希希				得点		
役員D 向井瑞高				前半	後半	合計
1 浅井友可里						1
2 種川真子						
3 阿久田実咲						
4 早船愛子				T	正	1
5 大山美貴						1
6 遠畑美沙						2
7 菅由衣						2
8 伊藤真衣				T	T	4
9 小箱雅				T	F	5
10 飯田裕果						1
11 石坂美希						
12 毛利真						
合計	3	5	1	8	15	23

タイムキーパー 山田駿介 スコアラー 田代真

マッチメイカー 山田駿介 審判員 神野数也 審判員 藤坂明雄

前半				後半			
A	結果	得点	時間	B	結果	得点	時間
3	1	0	14				
8	W	0	46				
4	2	1	08				
		2	46	W	6		
2	0	3	3	14	W	4	
3	4	4	08				
		4	10	①			
4	5	5	24				
		6	24	S	4		
4	6	6	48				
3	7	7	33				
		8	00	S	11		
4	8	8	20				
8	9	9	21				
4	10	10	48				
10	W	14	20				
4	15	58					
		16	25	6			
9	16	30					
7	17	01					
		19	22	2			
		19	32	3			
9	14	20	40				
		22	09	4			
		22	38	W	5		
		22	06	5			
①	25	51					
	26	23	6				
	29	32	7				
	29	59	8				
14-8				26-23			

特記事項

## ハンドボール

ぎふ清流国体ハンドボール競技

## 結果報告

No. 84

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月6日(土)	試合記号	Ei	回戦	2回戦
種別	成年女子	会場	下呂市交流会館		
A(都道府県名)			B(都道府県名)		
香川県			三重県		
得点合計	小計		小計	得点合計	
26	14	前半	8	23	
	12	後半	15		
		第1延長(前半)			
		第1延長(後半)			
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
	7mTC				

## 【戦評】

記載者氏名

中村 敏朗

昨年この地でプレ大会チャンピオンとなった香川県と三重県の試合は、観客の声援も多く、白熱した試合となった。開始12秒、香川県3番塩田のミドルシュートで幕を開けた試合は、まさに予想外の展開をみせた。なんと試合開始から10分経過したとき、スコアは、10対0となっていた。この間、香川県7番筑後の速いボール回しから3番塩田がカット・シュート・パスに大車輪の活躍を見せ、キーパー森山のスーパーセーブ連発から、サイド速攻で4番沢井は10点中5点をたたきだした。三重県は、4分にタイムを取り、流れを変えようとしたが、その後、2名の退場者がでて、香川県に走られてしまった。ところが、その流れは10分過ぎに登場した三重県1番キーパー浅井によって一気に変わる。浅井は最初、香川県4番沢井にサイドシュートを入れられるが、その後5分間無得点におさえた。スーパーセーブの効果は、16分10秒に訪れた。三重県6番漆畑がカットインで初得点をもたらし、その後2分間で一気に3得点をあげた。香川県も5分の沈黙後は、10番土井や7番筑後の速攻などで加点したものの、前半残り10分間をまたもや三重県のキーパー浅井が香川県を0点に封じてしまった。その間に8番伊藤のミドルや9番小稲の2得点を含め5連続得点を果たし、14対8で前半を終了した。終了間際の三重県4番早船のロングシュートはすばらしかった。後半に入り、香川県3番塩田がミドルシュートを放つと、三重県4番早船も打ち返すといった展開で互いに一步も引かない白熱の試合となった。しかし、8分には、2名の退場が三重県に出て、追いつけそうで追いつけない状況の中、キーパー浅井の踏ん張りで12分には19対15と4点差に香川県を追い上げた。しかし、再度三重県に退場や失格が出て、香川県4番沢井、9番藤井、6番中久保に連続得点を決められてしまう。必死に追い上げる三重県は、3番阿久田や4番早船のステップシュートで終了間際には3点差まで追い上げ、会場を大いにわかせたが、26対23で香川県の勝利となった。両チームのキーパーが盛り上がった試合の立役者だった。